

--- 普天間基地を巡る鳩山政権の迷走 ---

沖縄の普天間基地問題を巡って鳩山政権は迷走を続けています。昨年の衆院選では民主党は「最低でも県外移転」を約束していましたが、今は、辺野古の陸上部に滑走路を作るとか、別の基地を沖縄に作る、九州に基地を作るなどと迷走を続けています。

4月1日の朝日新聞の「声」欄には沖縄の医師の「日本の安全に海兵隊基地は必要か」と題する投書が載っていました。ベトナム戦争の時、沖縄は米空軍のB52等による空爆の出撃基地にされました。横浜の港の中央にある瑞穂埠頭はベトナム戦争当時ベトナムへの兵站基地にされ、武器弾薬が送り出され、又、ベトナムで破壊された戦車が修理の為に送り返される港とされました。「海兵隊」は現在アフガニスタンなどで活動しています。日本の防衛を担当している訳ではありません。これらを見れば、日本にある米軍基地が日本の防衛の為ではなく、アメリカの世界戦略の為に使われていることは明らかです。

米国に逆らって日米同盟にひびが入ったら大変と思う人もいるでしょう。しかし、かつて米国との同盟で基地を米国に供与していたフィリピンは1991年に、米比相互防衛条約を廃棄しました。これにより、1992年にアメリカ軍は完全に撤退しました。しかし、フィリピンの安全には何も問題はあります。フィリピンの安全は周辺国との友好関係で保証されているのです。日本も周辺国との友好関係を大切にすれば、安全は保証されるのです。米軍は要らないのではありませんか？



鶴見駅の東には、鶴見町、鶴見中央、そして、本町通りや潮田町などが広がっています。そこは日本鋼管の製鉄所、鶴見造船所、東芝など京浜工業地帯の工場に働く労働者の町でした。その発展に伴って鶴見駅も発展し、東口に駅ビルが出来たのは1965年でした。駅ビル・カミンは老朽化により閉鎖、今、解体工事が始まり、新たな駅ビルが出来る計画となっています。